

園だより夏休み

主はわたしを草原の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴い魂を生き返らせてくださる。

詩篇 23 篇 2～3 章

今年度は梅雨が明けないままに夏休みに入ります。プール遊びを存分に楽しむことはできませんでしたが、子どもたちはどのような天候の日にもそれぞれの想いをもち、心と体を動かして幼稚園の日々を過ごしていました。そして、それらの日々を 保育者たちは子どもたちの安全を守りながら、でも子どもたちが「やってみたい」と自分の「できるかも」の気持ちを信じ挑戦する姿に共感し見守ったり、「こんな風に作りたい」と子どもたちのイメージする世界をより実現できるように環境を整えたりしながら寄り添いました。子どもたちは自らのペースで動き出し様々な経験（園生活を通して育まれる年齢に沿った課題も含めて）を通して成長し、言動にも多くの変化がみられました。それらの様子から、4ヶ月余りの1学期の園生活が恵みに溢れ豊かなときであったことに感謝でした。明日から、年長児たちは「こっぼの村」に出発です。現実の世界とファンタジーの世界を同次元で楽しみ、それぞれの心持ちで過ごしてきた日々。その日々繋がる2泊3日の経験は、きっと年長児たちのこれから繋がる豊かな時になることでしょう。

すべての学年で楽しんできたファンタジーの世界。聞こえないけれど、見えないけれど感じることで聞こえてくる世界、見えてくる世界。その様な世界を、ファンタジーを通してお友だちと一緒に楽しみ、お互いに共感し合う。そこから豊かな感性が育まれるのです。そのことを願い過ごしている幼稚園での日々ですが、様々な情報が無作為に耳へ届き、目に入る現代、年々その「感じることで実感する世界」を共感し合うことの難しさに心が痛みます。それでも幼児期だからこそその感性の育みを大切にしたいと願い思いを注ぎます。まずは保育者自らがファンタジーを存分に楽しみ、子どもたちが疑似体験を通してさらに豊かに楽しめるよう環境を整えます。日常の中での心躍る経験を通して育まれる豊かな感性を願いながら。

今学期も保護者の皆様にご理解いただき、共に子どもたちの成長を見守ってくださることができましたこと感謝申し上げます。少し長い夏休み、神様の恵みに溢れ、ご家族の健康と安全が守られた日々でありますこと、お祈りいたします。

園長 駿河 幸子